

NITE ケミマガ 410 号で、【2018/09/28】

EPA Takes First Steps in Identifying Next Group of Chemicals for Risk Evaluation under TSCA

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-takes-first-steps-identifying-next-group-chemicals-risk-evaluation-under-tsca>

EPA は、TSCA に基づくリスク評価の次のグループに含める可能性のある化学物質を特定するためのアプローチを発表した。さらに、リスク評価のためにどの化学物質を優先すべきか、どの化学物質が優先順位が低いかについて一般からの情報を求めると報じている。2019 年 12 月までに、EPA はリスク評価のための少なくとも 20 の高優先化学物質を指定し、リスク評価が現在保証されない 20 の低優先化学物質を指定しなければならないと説明している。とする記事が掲載されました。

この EPA のアプローチは EPA の汚染防止及び有害物質部(OPPT)が 2018/9/27 に署名した官報公示前の通知文書により概説されていますが、具体的な説明は EPA の作業文書 A *Working Approach for Identifying Potential Candidate Chemicals for Prioritization* で確認することができます。(以下の URL をご参照ください)

https://www.epa.gov/sites/production/files/2018-09/documents/preprioritization_white_paper_9272018.pdf

この文書は、優先すべき潜在的な化学物質を特定するための EPA の短期的なアプローチを示していますが、更により広範囲の TSCA アクティブ化学物質を考慮した長期的なリスクベースのアプローチについての提案も含まれています。

短期的なアプローチとしては、2019 年 12 月時点でリスク評価を行う高優先化学物質の候補選定を 2014 年の TSCA Work Plan Chemicals から始めるとしています。そのために関連する作業として 2014 年に更新された Work Plan Chemicals の残りの 73 物質とそれ以外の候補物質の意見募集を行う計 74 の公開 Docket を開設し、2019/12/1 まで意見募集しています。

長期のアプローチでは、優先順位付けのためのリスクベースの新たなアプローチ方法(NAM)、有害性・暴露などから優先付けする従来の方法、および 2014 年の Work Plan で設定された方法を統合したアプローチ方法を検討して行くと説明されています。TSCA のアクティブインベントリから 5 つの指標における物質毎のスコアを算出し、そのスコアを縦軸に、物質情報の利用可能性を横軸とするマトリックスにより優先順位付けする手法が詳しく説明されています。5 つのスコアには以下のものが提唱されています。

- Human Hazard-to-Exposure Ratio Score 人に対する有害性と暴露の比
- Genotoxicity Score 遺伝毒性
- Ecological Hazard Score 生態毒性
- Susceptible Population Score 影響を受けやすい人々の数
- Persistence/Bioaccumulation Score 難分解性／生体蓄積性

EPA は、公開の Docket を開設し、この長期的なアプローチ案に対するコメントを 2018/11/15 まで募集します。

https://www.epa.gov/sites/production/files/2018-09/documents/blank_placeholder.pdf